

第78回東北地方交通審議会
船員部会 議事要録

平成27年 4月24日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会

第78回船員部会

日 時 平成27年4月24日（金） 15:30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 長谷部部会長、高橋部会長代理、佐々木委員、
船津委員

労働者委員 : 紺野委員、正路委員、鈴木委員

使用者委員 : 佐藤委員（欠席）、鶴本委員、湯村委員

運輸局 : 菅原海事振興部長、村木海事振興部次長
峯田船員労働環境・海技資格課長
鈴木船員労政課長
佐々木労政係長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について

(2) その他

配付資料

- 資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料（平成27年2月分）
- 資料2 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）
- 資料3 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）
- 資料4 新規求人・求職数（全国）
- 資料5 有効求人・求職数（全国）
- 資料6 有効求人倍率（東北管内）
- 資料7 有効求人倍率（全国）
- 資料8 人事異動
- 資料9 新聞情報

議 事 概 要

◎開 会

【村木海事振興部次長】

議事に入ります前に、運輸局の方に人事異動がありましたので、事務局からご紹介いたします。

〔別紙 異動者紹介〕

【村木海事振興部次長】

続きまして、本日の船員部会の成立状況をご報告いたします。

〔第78回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料確認〕

◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

【長谷部部会長】

それでは、議事に入りたいと思います。

お手元にあります議事次第の議題(1)管内の雇用等の状況について、事務局の方からご報告願います。

〔鈴木船員労政課長より資料1から資料7に基づき報告〕

【長谷部部会長】

ただいまの報告内容につきまして、ご意見、ご質問等ございますか。
横ばいから良くなっているということですね。

【鈴木船員労政課長】

はい。

【長谷部部会長】

労働者委員の方はいかがですか。よろしいですか。

では、何もないということで、ご了承いただいたということで、次に進みたいと思います。

(2) その他

【長谷部部会長】

議題の「(2) その他」ですけれども、委員の皆さんから情報提供等をお願いしたいと思います。

いつものように労働者委員の方から何かございますでしょうか。

はい、お願いします。

【紺野労働者委員】

平成26年度の宮城県水産高等学校の卒業生の進路状況について分かりましたので、この場でお知らせします。

まず、本科と専攻科があるんですけども、本科の方の進路状況からご説明します。

内航船に関してはゼロ、旅客船は4名就職しまして、内訳は県内が2、県外が2となっています。

漁船の方はトータルで12名就職しまして、県内が6、県外が6、1名は調査船、これは神奈川県にある海底調査船の会社に1名就職しております。

続きまして、専攻科についてですが、内航船に3名、漁船に1名、漁船の方は石巻の会社でまき網船です。あと漁業取締船に1名、これは県内、気仙沼です。あと官庁船に1名となっています。

あと、専攻科に進学した生徒では、航海科に2名、機関科に3名が進学しております。以上です。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。

これにつきまして、船津委員の方から何かございますか。

【船津公益委員】

いや、特にありません。

【長谷部部会長】

ないということで、その数字はいいことだと解釈してよろしいですか。

【紺野労働者委員】

去年よりは増えています。

【長谷部部会長】

そうですね、徐々に…。

【紺野労働者委員】

徐々にですね。

去年は、震災の年に入学した生徒さんが卒業しまして、若干去年と比べると、今年の方が漁船に就職していて、陸上に就職するよりも賃金が恵まれているという面で就職した方が多いようです。

【長谷部部会長】

なるほど。内容に複雑なものがあるかもしれませんね。

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか、鈴木委員。

【鈴木労働者委員】

新聞にもありますが、今年の春闘、組合と内航2団体、全内航、大型カーフェリー、社長さんもいますけども、それぞれ妥結しました。

年度内というか期限ぎりぎり、どの部門も2団体も、全内航、カーフェリー、一律で1,800円のベースアップ、それに経験加給がされるということで決まりましたので報告します。

【長谷部部会長】

前回までは、ちょっとピリピリしていましたがね。穏やかになりました。

ありがとうございます。

他にございますでしょうか。（「結構です」の声あり）正路委員はなしですね。

では、使用者側の方から、いかがでしょうか。

鶴本委員、お願いします。

【鶴本使用者委員】

気仙沼の船主協会管内なんですけど、乗船した人数は昨年並み、平成27年1～

4月まで8人、5月は2人、1～5月ですと10人ということでございます。

応募者数が少ない傾向にあると、こういうような感じです。

それから、定着率は遠洋船が80%、近海船が35%ということで情報を提供したいと思います。

【長谷部部会長】

近海船が35%というのは、低くなったということですか。そうじゃなくて、いつもそうなんですか。

【鶴本使用者委員】

低くなっていると思います。

【鈴木労働者委員】

近海船って、「近海マグロ」のことです。

逆に、遠洋マグロが80%位、定着率がですか。

【鶴本使用者委員】

私もびっくりしたんですけども、やっぱり受入側の方の体制が大分以前とは違っている。

【鈴木労働者委員】

船が新しくなったということですか。

【鶴本使用者委員】

そうではなくて、入ってくる人に対し、幹部職員が、やっぱり船に乗る方が少なくなってきたので、大事に育てようというような考えが浸透してきているのではないかと思っています。

【長谷部部会長】

いいことではありませんか。何かございますでしょうか。

【鈴木労働者委員】

私、一つ良く分からないんですけど、この新聞に、またサンマの記事が載っていますよね。

このTAC、去年確か100万トン位サンマは余っているみたいな話でしたが、調査の時になって、今年は大分減っていますよね。1年でこんなに減るもなんですか。

去年のことは書かれていないんですけど、去年サンマはいっぱいいるからって、鶴本委員、確かそうでしたよね。

三十何万トンって、かなり下がっているんじゃないですか。ちょっと良く分からないんですけど、そうするとTACが減るかもしれないということなんでしょう。

【鶴本使用者委員】

そうですね。「ABC」という生物学的許容漁獲量が、大分評価が低いんですよ。

【鈴木労働者委員】

去年は確か、私、空覚えなんですけれども、100万トンとか、九十何万トンとかあったはずですよ。このABCというのが。

それで、22～23万トンですか。

【鶴本使用者委員】

22～23万トン位じゃないですか。

【鈴木労働者委員】

分からないですね。

【鶴本使用者委員】

何とか20万トンの線を確保してほしいという要望を出しているみたいなんですけど。

生物学的許容漁獲量ですね、ABCというのは。

【鈴木労働者委員】

そうですね。不思議だなと、ちょっと思ったもので。

【長谷部部会長】

済みません。今のやりとりは、どのように受けとめればいいでしょうか。

【鈴木労働者委員】

事務局の方でも、この事情を良く分からないのかなと思って…。

【村木海事振興部次長】

私どもの方でも、情報はつかんでいないですね。

【鈴木労働者委員】

何で、こんなに数字が違うのか。

机の上のだけの計算でそういう数字が出てくるのか、どうなのか、良く私も分からないので、1年でそんなに何十万トンも変わってくるものなのかなと思って。

【鈴木船員労政課長】

水産庁の方で、調べてそういう予測を出したということですね。

【鈴木労働者委員】

多分、中央でTACを決めるんでしょうから、これを元に。

ここにも、漁獲量が大幅に減少するかも分からないと書かれていますものね。

もし分かったら、次回まででいいので、なぜ数字がこんなに変わってくるのか教えて下さい。

【村木海事振興部次長】

分かりました。

【長谷部部会長】

事務局の方で調べて下さい。お願いします。

全体として何か役に立つことでしょうか。

【鈴木労働者委員】

そうですね。TACが減ればサンマを獲る船も船主も困るので。

【長谷部部会長】

ということでよろしいですか。

【鶴本使用者委員】

それから、一つ、お願いなんですけど、海技試験の受験の要件として履歴が、例えば3年とかないと受験できる資格がないというようなことなんですけど、漁船の遠洋船の場合、1年何ヶ月の航海があるんですね。例えば1日足りなくても、1週間足りなくても受けられない訳ですよ。

そうすると、4年、5年たないと、受験資格ができないということで、少し履歴を1年とは言わないんですけども、数ヶ月でも短縮していただけないかなと。こんな勝手なことを言って申し訳ないんですけども、そうすると、大分救われる人が増えるので、何とか、この人手不足の世の中に規制を緩和していただきたいと思えます。

【鈴木船員労政課長】

法律の世界のことなので、それは国土交通本省の方でそういう業界の要望なりを聞いて検討するでしょうけど、基本的に国際条約との絡みもありますから、なり手がいないから緩和しましょうと、簡単には多分いかないでしょうが、業界の要望があるでしょうから、それはそれとして、業界としても大日本水産会を通して、要望なりを上げていただいて、こちらはこちらの方で担当、海技資格課ですけども、情報としての話があったということを伝えるということになりますね。

【鶴本使用者委員】

お願いいたします。

【鈴木船員労政課長】

水産高校とかの生徒であれば、もともと短い、いわゆる一般の方よりは短い履歴で受験できるというのがありますけど、それとは別に一般的な履歴として2年なり3年というのが長過ぎますよねという話でいいですか。

【鶴本使用者委員】

ええ、そうですね。

【長谷部部会長】

では、要望として行政サイドから上げていくというこういう話ですか。

【鈴木船員労政課長】

はい、海技資格課の方から。

【長谷部部会長】

ご検討下さい。それでよろしいですか。

【鶴本使用者委員】

はい。

【長谷部部会長】

どうもありがとうございます。

他にございますでしょうか。湯村委員、いかがですか。

【湯村使用者委員】

先ほど鈴木委員からも春闘の件についてご報告いただきましたけども、相変わらず、依然荷動きがいまいちで、運賃の上昇も見られないような、そういう状況の中での業界としての受入れた妥結だったんですけど、聞いた話なんですけど、ある船主さんには、こういったような厳しい状況の中で、こういった数字を認めざるを得なかったということで、非常に力不足であったという、その詫び状が届いたんですね。

いかに業界としては、苦しい状況の中で認めた数字だったというのをご理解いただきたいなというように、そのことだけお話をしたいと思えます。

【長谷部部会長】

そういうように、受けとめて下さい。

【鈴木労働者委員】

はい、分かりました。

【長谷部部会長】

詫び状というのは、普通回らないんですか。

【湯村使用者委員】

団体にもよるんですが、ある団体がそういった詫び状を加盟している船会社に送付しているようです。

【長谷部部会長】

分かりました。ありがとうございます。

全部終わりましたので…。

他にございますでしょうか。

今日は新年度が始まったばかりということで、これから色々なことがあると思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、無いようですので、今日の議事は終了とさせていただきたいと思えます。

次回の船員部会ですが、5月22日金曜日の午後3時半から、会場はここ4階会議室で開催することになります。どうぞよろしく願いいたします。

◎閉 会